



合板の積層断面を見せたデザインのテーブル

『a side-満寿屋-』には、用途に合わせてフレキシブルに可変できるオリジナルのテーブルとソファ席があります。国東の七島蘭(しちとうい)でできた畳がある瞑想室を入れると、最大15名ほどが利用できます。また、利用者は向かいにある『すじ湯温泉』に無料で入ることができるそうです。

「コワーキングスペースではなく『湯ワーキングスペース』と呼んでいます。仕事の休憩がてら源泉掛け流しの温泉に入れるというのは、鉄輪ならではですね。それに、温泉に入ったあとは心理的にオープンになるからか、他の利用者との会話が生まれているような気がしますね」と運営を担当している長谷川さんは話します。

庇(ひさし)の形をモチーフにしたロゴマークには、人が交わるという意味も込められています。ここでは、鉄輪に住んでいる人と仕事や休暇で来ている旅行者が交わり、自然とコミュニケーションが生まれているそうです。



『a side-満寿屋-』のロゴ

『"a side"』というのは1つの辺という意味です。立体や平面が複数の辺で構成されているように、『a side-満寿屋-』も鉄輪を構成する1つの辺として機能していきたいです。そう池田さんは説明し、鉄輪における『a side-満寿屋-』の役割についても次のように語りました。

「ここに集った人たちが新しいことを始めたり、何かを生み出していくプラットフォームのようになったらいいなと思います。『a side-満寿屋-』だけで全てを完結するのではなく、鉄輪の宿やレストラン、カフェと連携